

外科・移植外科

・豊富な症例数

神戸市立医療センター中央市民病院外科・移植外科での研修の一番の魅力は豊富な症例数にあります。年間で食道20例、胃150例、大腸200例、肝臓60例、膵臓40例と非常にバリエーションに富んだ症例数が経験出来、肝胆膵領域のトップクラスの指導医や、内視鏡外科学会技術認定医の資格を持った指導医も4名おり、開腹手術のみならず腹腔鏡手術をしっかりと学ぶことが出来ます。大腸領域ではほとんどを腹腔鏡手術で行っており、胃領域でも適応を考慮し早期胃癌では腹腔鏡手術で手術を行っています。また肝胆膵領域でも適応をしっかり考慮し腹腔鏡手術の導入を進めているところです。

当科の方針として、『十分に準備をしたうえで実際に手術を執刀することで学び、助手の立場で手術を見ることでさらに知見を深めていく』をモットーにしており、入念に準備・練習をした者には執刀の機会が与えられます。私が当科を志望した理由の大きなひとつが、その執刀数の豊富さです。年によって症例数は前後しますが、執刀数は、専攻医1年目で鼠径ヘルニア40例・胆石症40例・大腸10例程度、2年目になり半年で胃20例・大腸20例程度、の症例を執刀しており、3年目にはそれらに加え技量に応じて肝臓や膵臓の執刀が当たるようになって行きます。

また緊急手術症例が多いこともその魅力のひとつです。年間300例ほどの緊急手術を行っており、当直の際には概ね1例は緊急手術があります。虫垂炎・胆嚢炎から消化管穿孔・外傷症例まで幅広く経験することが出来、基本的に緊急症例は術者として手術を行います。定例手術ももちろんですが、緊急症例への対応も外科医として求められる技量のひとつです。

・雰囲気の良い職場

スタッフの指導のもと専攻医が各学年に2人ずつ合計6人で働いています。専攻医同士では年齢が近いこともあり、仲間としてともに働き、またライバルでもありお互いの執刀する手術をみながら刺激を受けています。必ず専攻医とスタッフの2人体制で患者を受け持ち、治療に関してわからない点があればいつでも相談できる体制を整えています。

・学術活動への支援

外科・移植外科では学術活動も積極的に行っており、専攻医も含め1人あたり4つの全国学会・1つの国際学会での発表を目標としています。外科学会、消化器外科学会、内視鏡外科学会には専攻医も含め全員演題を出し、その他の国内・国外の学会にも演題を出すことにより数多くの学会への参加・発表を行っています。また、論文に関してもやる気があれば専攻医でも数多く発表しており、英語論文の発表をする専攻医も在籍しています。

是非当院に見学へお越しく下さい。一緒に働きましょう！